

1. 評価結果概要表

作成日 2008年11月5日

【評価実施概要】

事業所番号	1271700435
法人名	株式会社メデカジャパン
事業所名	さくらケアセンターそよ風
所在地	〒285-0812 千葉県佐倉市六崎1525-1 (電話) 043-483-8121

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成19年11月5日	評価確定日	3月31日

【情報提供票より】(19年10月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年7月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤14人, 非常勤4人, 常勤換算6人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨作り		
	2 階建ての	2 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000円	その他	食29,400+運営管理25,000+理美容2,500+オムツ	
敷金	有(320,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	有(期間:4年)	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	300 円	おやつ	80 円
	または1日当たり 980 円			

(4) 利用者の概要(10月20日現在)

利用者人数	16 名	男性	4 名	女性	12 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	9 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	81 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	栗山中央病院
---------	--------

特定非営利活動法人コミュニティケア研究所

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

佐倉市の閑静な住宅街の一角、丘に建つ建物は近代的で、一階がデイサービス、二階がグループホームとなっている。周辺は緑が多く、食堂兼リビングの大きなガラス窓からは、優しい陽射しが差し込む。木立の様子から、季節の移り変わりを日々感じることができる。館内各所に絵画をはじめ、手作りカレンダーなどの装飾が飾られ、心安らく空間作りの配慮がうかがえる。管理者は、入居者優先の方針のもと、様々な問題に前向きに取り組んでいる。個々の居室には備え付けのクローゼットがあり、ゆとりある空間が確保できている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	理念は、各ユニットに掲示されている。職員の入れ替わりなどで介護計画の見直しがされていない指摘については、後任により見直しのシステムが機能している。金銭管理の一律管理は、行事の中などで金銭の支払いや金券のやり取りをする機会を確保しており、金銭感覚を忘れない工夫がなされている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者及び責任者中心で作成されたが、全職員に閲覧し周知を図ったとのことで、外部評価に対する意義を理解し、取り組んでいることがうかがえる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	職員異動により、運営推進会議が実施されていない。今後、行政、地域包括支援センター、自治会、民生委員、家族代表などの参加を要請し、2ヶ月に1度の定期開催を予定している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の面会が頻繁にあり、その都度職員から話しかけ、要望を聞く機会を設けている。また、介護相談員が毎月来訪し、入居者からの相談を受けている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近所の保育園の運動会に参加したり、中学校からのボランティアを積極的に受け入れている。今年度は6周年祭があり、地域住民を招待し、交流の機会を設けている。

## 2. 評価結果( 詳細 )

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ユニット毎に理念が掲げられ、桜ユニット「感謝」、若葉ユニット「思いやり」というように、人として大切なものを忘れないように努めている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼やミーティングなどで、全職員が理念を共有するよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所の保育園の運動会に参加したり、中学校からボランティアを積極的に受け入れている。今年度は6周年祭があり、地域住民を招待するなど、交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と責任者中心で作成しているが、全職員に閲覧し周知を図っている。外部評価に対する意義を理解し、熱心に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員の異動により、運営推進会議が実施されていない。行政、地域包括支援センター、自治会、民生委員、家族代表などへ参加を促し、2ヶ月に1度の定期開催を予定している。		参加メンバーが運営推進会議の意義や役割を十分理解し、早急に運営推進会議を開催することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の高齢者福祉課はサービスの質向上に前向きであり、行事に招待するなどして交流に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「そよ風だより」を毎月発行し、月初に健康状態の記録と金銭帳簿のコピーを請求書に同封し、報告している。入居者の写真を掲載する際は家族の了解を得ている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会が頻繁にあり、その都度職員が話しかけ、要望を聞いている。意見箱を設置し、意見や苦情などを運営に反映させるよう取り組んでいる。		介護相談員が毎月来訪することを家族へ周知し、第三者へも意見、不満、苦情を表せる機会を設けることが期待される。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者や家族との信頼関係を構築するするためにも、馴染みの職員が対応することが重要と考えており、異動や離職がやむを得ない場合も出来る限りの努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の新人教育やブロック会議、各研修会への参加を促している。参加する際は勤務調整など個別に対応している。研修後は報告書を作成、全職員に周知を図っている。		各職員が自らの立場、経験、地域密着型サービスについての理解や実践の習熟度等に応じて、段階的に成長していけるような研修を年間計画で実施されることが期待される。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会社系列の他センターとの交流、ブロック会議などで意見交換している。外部の意見には発見が多く、ケアに生かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>見学や体験入居の受け入れ体制は整っている。やむを得ずすぐに入居する際は、家族や関係者に付き添ってもらなどして、安心感を持ってもらうようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>支援する側、される側ではなく、家族の一員と思って接しているが、介護の場面ではプロ意識を持って対応している。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ユニット毎のカンファレンスを月1回行い、センター方式のシートを使って入居者の意向の把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>面会時に要望を聞き取り、ケアマネージャー、居室担当、介護職、責任者で介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は更新時以外でも、必要に応じケアカンファレンスを通して見直している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	1階がデイサービスなので、見学に行ったり、デイサービスの広い浴室で入浴を楽しむなどしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の協力で、かかりつけ医の診察を受けてもらっている。ケアマネジャーに看護師資格があり、常に健康観察をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアを受け入れる準備があるが、現在は利用がない。系列の老健、提携病院と連携することができる。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員ミーティングでプライバシー保護や個人情報保護について理解を深めている。入居者が不快に思わない声かけの仕方を話し合い、共通認識を持つよう心がけている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的な流れはあるものの、買い物、散歩、入浴は入居者の希望やペースに合わせている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員は同じ食卓を囲み、食事を楽しんでいる。調理や後片付けも、職員が見守りながら、一緒に行なっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	可能な限り、利用者の希望に添った入浴を心がけている。嫌がる場合は無理強いせず、毎日希望する場合は対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カレンダー作りや月の歌の作成、花壇の水やりなど、個々の入居者がさまざまな楽しみを持っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	リハビリを兼ね、公園の散歩、買い物に出かけたり、おやつを外食にしたり、変化のある対応を心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。居室は入居者が鍵をかけてしまうので、家族の了解を得て職員が開けることができるようにしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時対応マニュアルを作成し、年2回の訓練を行なっている。隣近所との協力体制が今後の課題となっている。		地域と連携した防災対策を行なうことで、より安心感が持てると思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立の栄養バランスは本部の方針に従っている。水分や食事はチェック表で個々の状況を把握し、ゼリーやりんごジュースなど好みのもので補給している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除は午前・午後行い、光は暖簾やカーテンで調整する工夫をしている。絵画が廊下に飾られており、心安らぐ空間作りをしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が自宅で生活していた状況に近い環境を整えられるように、家具や寝具を持ち込んでもらっている。		